

「サクサク選べる」 —農薬のネット検索に一石を投じて—

インデックス情報センター 代表

浅野 勝司 (あさの しょうじ)

インターネットは便利なものである。キーワードを入れれば該当する項目がずらりと表示され、そこには多様で、膨大な情報が満ち溢れている。農作物の病害虫・雑草防除と防除手段の一つである農薬についても同じである。しかし、このネット情報は玉石混合、真偽入り乱れていて必要なものを的確に得るのはなかなか難しい。

農業分野における IT 利活用に関する農林水産省の調査 (2012 年 9 月) によると、農業者のパソコン所有率は 76.3% で、タブレットなどを加えると IT 機器所有者は 80% を超えている。そして今後の農業経営への利用意向は、50.4% の人が現在利用しており、21.7% の人が今後利用したいとしている。利用収集している情報の内容で一番多いのが気象、次いで資材、栽培技術、病害虫、市況の順となっている。この調査結果から農業者の IT 機器利用は多く、今後ますます増えていくものと思われる。

病害虫・雑草防除を的確に指導するためには防除資材を含めた多様な情報が必須であり最も大切なものといえる。特に農薬については安全性の面から適正使用の徹底はもちろん、よりよい使い方のためにも、インターネットからの情報提供は不可欠なものになりつつある。それでは現在数多く見られる病害虫・雑草防除や農薬のインターネットはどのくらい役立っているのだろうか。単に情報を発信しても生産現場で有効に活用できなければ意味がない。防除の指導や実際の防除を実施するにあたって必要な情報はいくつかあるが、ここでは農薬に絞ってインターネットによる情報の伝達の現状と問題点を述べてみたい。

農薬の販売にあたっては農薬取締法により登録が必要である。現在登録されている農薬数は 4,328 薬剤、有効成分数は 561 種類である (2014 年 3 月現在)。これらの登録内容については、独立行政法人農林水産消費安全技術センター (FAMIC) のホームページ「農薬登録情報提供システム」から、登録されている全農薬について登録番号、種類名、名称 (商品名) 等を見ることができる。最近では適用表も見易く更新も早く、無料であり素晴ら

しいサイトと言える。しかし、作物名や病害虫・雑草名等から目的とする農薬を絞り込む検索機能はない。

4,300 以上ある有効登録農薬は、同一製剤であっても商品名が異なれば 1 剤となるので重複されたものが多く含まれている。例えばスミチオン乳剤 (50%) は同一製剤が 17 種の商品名で別々に登録されている。また、登録はあってもメーカーなどの都合で製品が販売・流通されていないものも多く、実質的に使われている農薬は推定であるがこの半数以下ではないかと思われる。これらの農薬のインターネットの情報は主にメーカーのホームページで詳しく掲載されている。最近は各社とも力を入れ内容が充実したものも多い。しかし、掲載されている農薬は当然のことながら当該メーカーが販売しているものに限られており、他社剤と比較検討することはできない。また、メーカーとしては「農薬の販売により品質のよい農産物を多く生産することに寄与する」という社会的責任を果たす一方、情報の提供にあたって経営上の制約があることは否めない。

農薬の検索機能があるサイトとしては、一般社団法人日本植物防疫協会が運営する「JPP-NET」、JA 全農の「アピネス アグリインフォ」、一般社団法人農山漁村文化協会の「ルーラル電子図書館」等がある。これらのサイトの対象は公平性のため致し方ないが、登録のある全農薬である。このため検索される農薬数は膨大になり、また販売していない農薬もあって、辞書的な役割としての利用価値はあるが、使用者が実際場面で農薬の選択に参考するには使いにくい側面がある。そしていずれも会員登録制で有料であり、気楽に利用できない。

約 10 年前に、農薬普及の経験のある仲間とボランティアで、実際に製造販売されている農薬を主体に、生産現場で防除に不可欠な剤を選択した、簡便で使いやすい検索サイト「農薬インデックス」を立ち上げた。アクセス数は一日当たり 2,000 件を超えている。老体に鞭打ち試行錯誤しながら進めているが、今後もよりよいサイトにしたいと思っている。